

衛星観測は森林のモニタリングと管理をどのように向上させることができるか？（11月10日 ジャパン・パビリオン）

本サイドイベントは、宇宙航空研究開発機構（JAXA）主催、JICA及びケニア環境林業省の共催で開催された。JICAがケニア環境森林省、ケニア森林公社、ケニア森林研究所と共に実施している技術協力プロジェクト「持続的森林管理・景観回復による森林セクター強化及びコミュニティの気候変動レジリエンスプロジェクト」の森林政策・普及専門家の井上泰子氏がモデレーターを務め、同プロジェクトのコンポーネントマネージャーであるケニア森林公社のピーター・ンデュアティ氏がパネルディスカッションのファシリテーターを務めた。

はじめに、ケニア水源庁のCEOであるタヌイ教授が、ケニア環境森林省事務次官の代理として、ケニアの森林セクターに対する日本の37年にわたる技術協力とJICA-JAXAによるJJ-Fast早期警報システムの提供への感謝を表した。また、ケニア環境森林省森林保全局長のアルフレッド・ギチュー氏が、ケニアのREDD+の取り組みの全体像について説明し、ケニア森林公社のピーター・シラヨ氏が、ケニアのREDD+準備の進捗状況について、JICAの支援により確立された参照レベルや国家森林モニタリングシステム（NFMS）の構築、及び今後の改善予定等を発表した。

続いて、モザンビーク国土環境省森林局のジョアキム・マクアクア氏、インドネシア環境林業省森林資源インベントリー&モニタリング局長のベリンダ・アルナルワティ・マルゴノ氏が、それぞれの国のNFMS構築などの取組について発表した。また、国連開発計画（UNDP）環境・回復力ユニットのポートフォリオアナリストであるジェフリー・オメド氏、国連食糧農業機関（FAO）IMPRESS（UK-PACT）プロジェクトマネージャーのジョナサン・ロバーツ氏が、ケニアにおける関連のイニシアティブやプロジェクトを発表し、JICAの支援による活動との相乗効果をもたらすよう情報交換を行った。最後に、林野庁の川島豊森林吸収源情報管理官が、しっかりとした炭素会計とモニタリングシステム、そして技術的な進歩、持続可能な木材利用の推進が重要であると述べ、閉会した。



パネルディスカッションの様子



会場の様子



ケニア森林サービスのピーター・シラヨ氏による FMS について発表